

平成 26 年度 第 3 回高齢者支援部会・健康づくり支援部会 合同部会

< 議事録 >

日 時：平成 26 年 10 月 30 日（木）

19 時～19 時 38 分

場 所：市役所庁舎 10 階第 6 会議室

(会議次第)

1 開 会

2 会 議

(1) 第 6 期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果の
分析結果について

(2) 第 6 期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための市民・団体意見交換会の
結果について

(3) 平成 26 年度第 2 回高齢者支援部会・健康づくり支援部会 合同部会（平成 26 年 8 月 25 日
開催）の議事録の確認について

(4) その他

3 閉会

(委員・専門委員)

○出席（15 名）

（高齢者支援部会 7 名）

大江委員、杉野委員、笹岡委員、渡辺専門委員、池田専門委員、広瀬専門委員、濱専門委員

（健康づくり支援部会 8 名）

井出委員、吉村委員、山本委員、金須委員、高橋きみ子専門委員、角谷専門委員、有岡専門委員、
高橋セツ子専門委員

○欠席（2 名）

（高齢者支援部会 2 名）

太田委員、畠山専門委員

(事務局)

○健康推進課

名和保健福祉センター館長、野原課長補佐

○介護保険課

相馬課長、本房課長補佐、家内管理係長、内藤認定給付係長

○高齢者福祉課

金森課長、五十嵐地域包括支援センター担当課長補佐、岡坂課長補佐、岡田主任

(議事録)

○事務局

それでは、皆様、こんばんは。本日は、お忙しい中、また、お疲れのところご出席いただきまし

て、誠にありがとうございます。ただいまから、帯広市健康生活支援審議会第3回高齢者支援部会と健康づくり支援部会との合同部会を開催させていただきます。委員及び専門委員の皆様合計17名中15名のご出席をいただいておりますことから、本日の会議は成立しております。

議事に入ります前に、本日の資料の確認をさせていただきます。事前に、会議次第、委員及び専門委員名簿、座席表、資料Aと致しまして『第6期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果』、次に、資料Bと致しまして『市民意見交換会総括表(中間報告)』、資料Cと致しまして『団体意見交換会総括表(中間報告)』、そして、資料Dと致しまして、平成26年8月25日に開催致しました『平成26年度第2回高齢者支援部会・健康づくり支援部会合同部会の議事録』をお送りしております。

不足の資料等ございましたら、事務局までお申し出ください。皆様、揃ってますでしょうか。

それでは、早速会議に入らせていただきますが、合同部会の審議項目が高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に関わるものでございますことから、以後の進行につきましては、当該計画の所管部会の大江部会長にお願い致したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○高齢者支援部会長

皆さん、お晩でございます。それでは、本日の会議を始めさせていただきたいと思います。

まず、議題の(1)第6期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果の分析結果についてです。

事務局から説明をお願いします。

○事務局

アンケートの調査結果ということでご説明させていただきます。

資料は、A4版の報告書が6冊と、A4版横の概要版を配付させていただいております。本日は、A4版横の概要版でご説明させていただきます。

まず、申し訳ございませんが、表紙の番号について、訂正をお願い致します。資料Aの表紙にあります(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(5)、(6)となっておりますが、正しくは、(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)でございます。こちらで、7種類のアンケートを実施させていただきました。

1ページをご覧いただきたいと思います。アンケート結果の報告にあたってということですが、1ページの左側につきましては、前回の合同部会の際に、調査目的等につきましては説明させていただいておりますので、省略させていただきたいと思います。

1ページの右側になりますが、要支援、要介護2以下の方と、一般高齢者の回答結果を比較しております。(1)家族構成では、ひとり暮らしの方が多い日常生活圏域として、日常生活圏域ごとにクロス集計しておりますが、認定者では川北日常生活圏域が38.7%とひとり暮らしの高齢者が多く、一般高齢者では広陽・若葉日常生活圏域が20.0%とひとり暮らしの高齢者が多くなっております。また、(2)の介護・介助の必要性では、介護・介助が必要ないと回答している方の割合が多いのは、認定者では川西・大正日常生活圏域が多く、一般高齢者では東日常生活圏域が多い結果となっております。

次に、2ページをご覧ください。

要支援・要介護高齢者向けの調査で、1,490人から回答を得たものでございます。このページの右

上でございますけれども、(3) 日中ひとりになる頻度という項目がございます。こちらでは、ひとりになる頻度が、「よくある」という回答の割合が多かった日常生活圏域と致しましては、川西・大正日常生活圏域では46.2%ということになってございます。

続きまして、3ページをご覧ください。

3ページでございますけれども、介護者との関係等いくつか設問がございますが、右上をご覧ください。(7)の外出の頻度(買い物)という項目でございます。こちらにつきましては、週1日未満と回答された方の割合が最も多いのは、南日常生活圏域で47.5%となっております。南日常生活圏域は、3年前の前回調査でも比較的多かったところで、39.8%で2番目でした。この日常生活圏域の特徴と言えるのかなと考えてございます。

次に、4ページをご覧ください。

4ページにもいくつかのグラフがございます。左下に「周りの人から物忘れがあると言われる」という項目がございますけれども、この質問に「はい」と答えた方では、川西・大正日常生活圏域の方が56.9%と最も多い割合となっており、2番目が川北日常生活圏域となっております。

次に、5ページをご覧ください。

このページには、地域包括支援センターの認知度に関する回答の結果を掲載してございます。年齢別、日常生活圏域別がございますけれども、上のグラフですね、「知っている」と回答された方の割合でございます。全体の割合としてはそれほど多くはなっていないのですが、前回の調査よりも「知っている」と回答された方の割合が増えているのが85歳以上の方となっております。お手元の資料には、前回の調査結果が載っていないのでわかりづらいところがあるかもしれませんが、結果としてはそのような状況になってございます。

続きまして、6ページをご覧ください。

このページは、一般高齢者からの調査の結果となっております。右上のグラフをご覧ください。(3)日中ひとりになる頻度の項目でございます。要介護高齢者でも同様の調査を行ってございますけれども、こちらの一般高齢者の調査では「よくある」の割合が最も多いのは、広陽・若葉日常生活圏域の35.3%となっております。

続きまして、7ページをご覧ください。

7ページの右下ですね、こちら(7)の外出の頻度(買い物)という項目では、週1日未満と回答された方の割合が最も多いのは、川西・大正日常生活圏域で21.3%となっており、前回調査と同様の結果となっております。

次に8ページをご覧ください。

8ページにつきましても、いくつか項目がございますけれども、右下のグラフをご覧ください。「周りの人から物忘れがあると言われる」という項目では、先ほどの認定者の回答より「はい」の割合が少なくなっておりますが、西日常生活圏域が20.2%で最も多い割合となっており、2番目が川北日常生活圏域となっております。

次に、9ページをご覧ください。

9ページの右側ですね、一般高齢者の方にも同様の質問をしてございますが、地域包括支援センターの認知度に関する回答結果です。年齢別の部分でございますけれども、知っていると回答された方の割合が、85歳以上で前回の調査よりも大きく伸びている傾向がございます。

次に、10ページをご覧ください。

介護サービスを利用されている方への調査結果の概要になってございます。右側の(4)介護保険制度への理解、それからその下に(5)適当と考える自己負担、介護サービスの利用料ですね、こちらにつきましては、回答の割合が多い順番としては、3年前の前回調査と同様の傾向になっているところでございます。

次に11ページをご覧ください。

11ページの右下に、(9)特に力を入れるべき高齢者保健福祉施策ですが、前回の会議での中間報告でもご説明させていただきましたが、家族の介護負担を軽減するための施策の充実が最も多い回答となっております。以下、ひとり暮らし高齢者への支援、それから判断能力が低下した場合の支援等の順序になってございます。

次に、12ページ、13ページでございますけれども、介護サービスを利用していない方への調査の結果をお示ししてございます。こちら、サービスに対する理解度、それから、適当と考える自己負担、その他でございますけれども、いずれの項目につきましても、3年前の調査と同様の傾向となっているものでございます。

次に、14ページをご覧ください。

14ページ、15ページにつきましては、要介護高齢者、要介護3以上の方ですね、その方達への調査ということで実施してございます。

ここも概ね同様の傾向でございますけれども、特徴的な項目と致しまして、15ページをご覧ください。左上でございます。(6)適当と考える1か月当たりの自己負担額の質問では、15,001円から20,000円と回答した方が一番多くなってございます。この設問と答えにつきましては、要介護3以上の方というところがございますけれども、10ページや12ページにも、利用者、そして、未利用者への同様の設問がございますけれども、そちらでは金額が一番低い3,000円以内といったところが最も回答の割合が多かったという結果が出てございまして、介護度が重い方につきましては、金額が高い部分も適当と考えていらっしゃるという傾向が出ております。

次に、16ページをご覧ください。

こちらからは、介護事業者、また、介護従事者向けに調査を行ったものでございます。このページの右下をご覧ください。(3)の従業員の定着状況の項目では、定着率は低くないという回答が72.5%ございました。とは言いつつも、左側ですね、17.4%、定着率が低く困っているという回答もございます。こちらにつきましては、今後、介護従事者等の確保に関する課題と捉えてございます。

次に、17ページをご覧ください。

右下に、(7)運営する上での問題点での回答では、今の介護報酬では十分な賃金を払えないという回答が一番多い結果となっております。

次に、18ページをご覧ください。

こちらは、介護従事者の方からの回答結果でございます。

本日お配りさせていただきました冊子の6冊目を見ただけですでしょうか。「事業所における介護労働実態調査 介護労働者の就業実態と就業意識調査 報告書」の冊子の44ページをご覧ください。この44ページに掲載してございますグラフが、概要版の18ページの右上に用いているグラフとなります。勤務年数のグラフとなりますが、5年以上10年未満が21.7%と一番多く、2番目が1年未満の20.1%となっております。

最後に、19ページをご覧ください。

左下に(6)賃金や手当等に関する希望ということで、従事者の方に回答いただいております。こちらの結果ですけれども、基本給の引き上げと賞与の導入・引き上げという部分がございますけれども、やはり従事者の方は賃金面での希望が多いというところでございます。

主な項目だけ、ご紹介させていただきました。こちら、アンケートの結果につきましては、非常に項目がたくさんございます。本日配付させていただきました6冊のA4版の報告書本編がございますけれども、項目に応じて確認していただければと思います。

なお、前回の合同部会で中間報告をさせていただいた際に、前回の調査結果より正社員の割合が増えているが、月給の割合が減っている件についてご質問がありました。事業所からの回答では正社員の割合が増えているという結果となっておりますが、従業員からの同様の質問では、正社員が、1%未満だったのですが、若干減っているという結果となっております。事業主の方からの回答の割合と従業者の方からの回答の割合が逆転していたというところがございまして、で、実際月給かそうでないかという部分は、従業者の方からしか回答いただけていないものですから、そこでちょっと会社からの回答と従業者からの回答と、正社員と給与の割合が逆転していたというところがございまして、ご報告致します。

説明は以上でございます。

○高齢者支援部会長

はい、ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご意見・ご質問等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、他にご質問等なければ、次に議題の(2)第6期帯広市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための市民・団体意見交換会の結果についてを議題と致します。

事務局より説明をお願いします。

○事務局

まず、資料のB『市民意見交換会総括表(中間報告)』の関係について、ご報告、ご説明させていただきたいと思っております。アンケート結果につきましては、当該の方々から直接意見を聴くという手法なのですが、この市民意見交換会につきましては、それ以外も含めて幅広く市民の方にこの計画に向けての意見をいただきたいという趣旨に基づきまして、8月下旬から9月上旬にかけて、市内コミセン等10か所の会場で行っております。日時、場所等につきましては、資料に記載のとおりでございます。10か所で140名の方に参加いただいたのですが、その参加いただいた方々から、それぞれいただいた意見といたしますのが、資料の中ほどから下の部分、①から⑧の項目別に、多少整理をさせていただいておりますけれども、全体で105件の意見をいただいております。特に、その中で多く寄せていただきました意見と致しましては、参加していただいた方が町内会関係の方が多かったということもございまして、地域で高齢者を支えていくためには、地域で支える力、町内会の活動だとか、民生委員・児童委員の活動が非常に重要であるという意見をたくさんいただきました。加えまして、この時点で介護保険制度の改正の中身が明らかになったということもございまして、特に、要支援1・2の方への予防給付で賄われていたサービスが、新しい総合事業の中で、地域支援事業に移行するという考え方が明らかになってきたということもございまして、そう

いったことに対する、今後の制度の成り行き等について多くの質問が出されていたところでございます。なお、この表には、中間整理、10回開催分ということでまとめさせていただいておりますが、一昨日なのですが、夜間の意見交換会を1回実施してございます。ですから、合計で11回の開催ということになるのですが、11回目の内容も含めて整理した資料は、また改めて皆様にご報告させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

続きまして、資料C『団体意見交換会総括表（中間報告）』をご覧ください。これは、介護保険、高齢者保健福祉に深く関わっている多くの団体の皆様から直接意見を聴く場ということで、9月の下旬から今現在進行中なのですが、先々週末まで行った意見交換会の分までにつきましてまとめさせていただいております。計11回、全体で127名の方にご参加をいただいております。日時、団体名等につきましては、表の上段に記載のとおりでございますので、ご参照いただければと存じます。表の下段、先ほどの市民意見交換会と同じようなかたちで、出された意見を区分ごとに整理をさせていただきまして、全体で170件の意見をいただいたところでございます。特にその中で多く意見が寄せられましたのは、やはり直接介護事業に携わっている方が多かったということもございまして、⑦の介護保険制度の動向の中で、介護サービスを支えていく人材の確保・育成が急務であるということが、各団体から本当に多く意見をいただいたところでもあります。また、先ほども申し上げましたけれども、介護保険制度の改正、要支援1・2の方の関係ですけれども、これに対する今後の動向等につきましても多くいただいたところでございます。あわせて、地域で支える仕組みづくりということで、先ほどアンケート結果の報告の中で、地域包括支援センターの認知度が上がってきたというような話があったのですが、そういったセンターの体制と機能の強化・充実が大切だという意見が多く出されたところでもあります。以上、お手元の資料に対する説明は終わらせていただきますけれども、先ほど申し上げましたとおり、関係団体との意見交換会は現在進行中でありまして、11月の中旬ほどまでかけて、合計で22の団体の皆さんと意見交換をする予定となっておりますので、こちら意見交換が終わり次第、このようなかたちでまとめて皆様にご報告していきたいと思っておりますし、あわせて、この計画をより良い計画とするために、皆様からいただいた意見につきましてはできるだけ反映していきたい、そういった立場で今後も作業を進めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願い致します。

説明は以上です。

○高齢者支援部会長

ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご意見・ご質問等があればお願い致します。

○委員及び専門委員

ちょっとよろしいでしょうか。ただいまの資料BとCの関係で、⑥と⑦、これがどちらもウエイトが高いのですが、これらの意見が、この次の11月4日に示される骨子案にそれなりに反映されているのかどうでしょうか。

○事務局

骨子案はこの次の会議にお出しする予定でございますが、今ご説明しましたアンケート調査結果、

そして、意見交換会でいただいた意見を含めて、骨子案への書き込みをしてございます。特に、人材の部分ですとか、新しい事業のこれからのやり方等、書き込みをしてございますので、4日の合同部会ではある程度かたちとして、ご説明させていただきたいと考えてございます。

○委員及び専門委員

わかりました。

○高齢者支援部会長

その他にございますか。よろしいでしょうか。次に、議題の(3)平成26年度第2回高齢者支援部会・健康づくり支援部会合同部会(平成26年8月25日開催)の議事録の確認についてですが、特に問題はありませんでしょうか。よろしいですか。特になければ、議事録は了承されたものと致します。

最後に、(4)その他について、事務局から何かございますでしょうか。

○事務局

はい、本日の審議は以上で終了となります。ありがとうございました。

先日ご案内させていただきましたとおり、次回の高齢者支援部会と健康づくり支援部会の合同部会は、11月4日に開催となります。お手元に茶色の封筒に入った資料があるかと思いますが、次の合同部会までにご一読いただき、4日に皆様のご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

○高齢者支援部会長

はい。その他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、他になければ、以上ですべての議事は終了致しました。本日の高齢者支援部会と健康づくり支援部会との合同部会はこれにて閉会と致します。お疲れさまでした。